令和４年度第１回　岡山県自立支援協議会 就労支援部会　議事概要【要旨】

日時　令和4年8月30日（火）13:00～14:55
場所　県庁3階　大会議室

（１） 岡山県内の工賃等の状況等について

- コロナ禍で、ここ数年、販売の機会が少なくなってきている。
  その中でも各事業所が努力を重ねて、工賃向上に努力されている。
- 知的障害者福祉協会の会員にアンケートをとった。
  原材料の高騰の影響を商品の値段へどう反映させるのかが問題だ。
  コロナの陽性者が増え、事業所が人手不足となると、工賃が上がらないのではないか。
  新しい作業・販売先の開拓等が課題だ。
- 県内の就労移行支援事業所にアンケートを実施した。
  就職者が伸び悩んでいる事業所が多い。
  コロナの影響で、企業での職場見学の受け入れが難しい。
- 就職された 357 人を、障害者就業・生活支援センターでアフターフォローしていくとなると、大変厳しいと思うが、一般就労に繋げるのは大切なことなので、就労移行支援と連携していきたいと思う。

（２） 令和４年度の就労支援に係る各取り組みについて

- 農福連携が注目を浴びている。
  コロナ禍ということもあって、難しい部分もあるが、労働局としても積極的に連携していけたらと思っている。
- おかやま障害者就業･生活支援センターで行っている事業について､知的障害の人の利用が多いが、精神障害の人も年々増えている。
  毎年 100 名くらい新規の方が登録していて、全体で 1,000 人前後の登録がある。
  就職、職場定着に向けた相談が多い。定着を促しているが難しい現状にある。
  事業主への支援も行っており、476 事業所に支援を行っている。
  一番多い相談は、雇用する障害者の職場定着に関する相談だ。
  ワークフォーラムを 11 月に開催予定。
- Ａ型事業所協議会の会員へアンケートを実施した。
  障害のある方の生産活動収入で賃金をまかなうのが難しい。
  フェアトレードになっていない。福祉やシルバー人材センターは、通常の価格の半額で良いという概念がある。
  ５年前のＡ型事業所の不正問題もあった。
  現状、コロナで飲食を行っている事業所は大打撃を受けている。
  Ａ型事業所の信頼を回復していきたい
- Ａ型事業所は 170 から 45 事業所減った。
  定員も減って、狭き門になってきている。
  Ａ型事業所に入りたい人が、入れない場合もある。
- 平成 30 年 11 月の農福連携サポートセンター開設から５年目になる。
  農福連携のマッチングを進めているが、農家のニーズは高いが、受ける事業所は少ないというミスマッチがある。

農福連携できる事業所の掘り起こしが必要だ。

- 先日、全国版セミナーに参加した。農福連携は広がっているという感がある。
  「農」の概念を広げて、林業、水産業にも広げてはどうか。
  学校でも農福のことを学ぶ機会も大切だ。
- 県内には、ＪＡ岡山、ＪＡ晴れの国岡山の２つの総合ＪＡがある。
  米や野菜の栽培から出荷まで、労働力不足が長年の課題だ。
  両ＪＡでは、１日や３日などのバイトからでも始められる農業１日バイトアプリ、労働者派遣で補っているが、まだまだだ。
  農福連携について、取り組んでみたいが、何から始めればよいのかわからないということで、今年の８月、ＪＡ晴れの国岡山、県と農福連携サポートセンターで情報交換会を行った。
  今後はアンケート調査を予定。調査後、県と農協中央会が協力して、農福連携サポートセンターにも協力いただきながら、連携を進めていきたいと考えている。
- Ａ型・Ｂ型事業所とも、どうやって工賃を上げたらよいか、企業へ働きかけたいが窓口がわからない、という声が多い。
  企業への働きかけは今後の課題であり、ご協力をお願いしたいと考えている。
- 社会就労センター協議会では、事業所が地域とのつながりを持ち、利用者も地域と繋がることを目標としている。
  新しく、ＳＤＧｓの視点を持ち、各圏域で活動を行っている。
  Ａ型・Ｂ型事業所が生き残れる取組をしていきたい。
- 利用者の高齢化が課題だ。
  農福に取り組んでいる事業所も多いが、事業所自体が農業をしていると、忙しい時期が農家からの依頼と被り、声がかかっても断ることもある。
  どの事業所も人手不足が問題で、人材確保が深刻な課題となっている。
  Ｂ型は高い工賃を目指すのか、働き方（やりがい）を求めるのか、も課題だ。
- コロナ禍で孤立してしまう事業所があり、横のつながりが重要だ。
  支援学校だけでなく、グレーゾーンの生徒や引きこもりから就職を目指す人の就労移行支援も行っている。
  今まで対象になりづらかった人も含めて、使っていただけるよう周知している。
  県南に事業所が固まっている。県北では事業所が少ない。
  地元の資源を使った事業運営ができればよいのだが。
- 支援学校から就労移行支援に行く人が岡山は少ない。
- Ａ型はレベルアップをコツコツしていくしかない。
  Ｂ型が岡山市・倉敷市で増加している。総量規制はどこでかかるのか。
  目標に近づくことが重要であり、できもしない目標を立てることは意味がない。
- 資材高騰やコロナ過による人材不足など厳しい状況下において、近年、農業の担い手として、農福連携に対する期待が高まっている。
  農家は福祉業界のことに詳しくないし、福祉関係者は農家のことに詳しくないので、双方の知識を兼ね備えた人材の育成に向けて、研修会などの事業を実施している。
  今後も、皆様方の御意見も聞きながら事業を進めていきたい。
- 岡山県は他県に比べて事業への取組がゆっくりだ。
  農業県であり、中四国農政局は岡山にある。地域の勢いを作ってほしい。
- 農業と福祉の関係者それぞれにお互いに情報共有できる場はありがたい。

・　Ａ型事業所の指導で関わっている。
生産活動収益で利用者賃金を賄うため、新規参入を考える事業所に対しては、賃金を賄えるか厳重に審査している。
県内では岡山市・倉敷市・新見市が事業所の指定・指導を行っており、引き続き各指定権者間での情報共有をしていきたい。